



佐藤クリスタル

国際交流員コーナー

CIR's Corner

2025年10月 – 第41号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

今月のテーマ：怖い話

ハロウィンが近づいているので、10月は怖い話を楽しむのにぴったりの季節です。この号では、私の子供の頃に読んだ二つの怖い話を紹介します。これらの話はアメリカではよく知られていると思います。アルビン・シュワルツによる「*In a Dark, Dark Room and Other Scary Stories*」と「*Scary Stories to Tell in the Dark*」という子供向けの本からの怖い話です。これらの本は子供のために書かれているので、簡単な英語で書かれ、あまり怖くありません。これらの物語は日本の伝統的な怖い話とどのように異なるのでしょうか？ハッピー・ハロウィン！

緑のリボン

In a Dark, Dark Room and Other Scary Stories より

Alvin Schwartz (文)、Dirk Zimmer (絵)



昔、ジェニーという女の子がいました。ジェニーは他の女の子と同じように見えたが、一つだけ違う点がありました。彼女はいつも首に緑のリボンをつけていました。

ジェニーのクラスにはアルフレッドという男の子がいました。アルフレッドはジェニーが好きで、ジェニーもアルフレッドが好きでした。

ある日、アルフレッドはジェニーに尋ねました。「どうしてそのリボンをいつもつけているの？」

「それは教えられないわ」とジェニーは言いま

した。

しかしアルフレッドは尋ね続けました。「どうしてそのリボンをつけているの？」

そしてジェニーは言いました。「いいの、気にしないで。」

ジェニーとアルフレッドは成長し、恋に落ちました。ある日、二人は結婚しました。

結婚式の後、アルフレッドは言いました。「私たちは結婚したから、緑のリボンについて教えてくれな

いか。」

「まだ教えられないわ」とジェニーは言いました。「時が来たら教えるね。」

年月が過ぎ、アルフレッドとジェニーは年を取りました。ある日、ジェニーはとても病気になりました。医者はジェニーが死にかけていると告げました。ジェニーはアルフレッドをそばに呼びました。

「アルフレッド。今、緑のリボンについて教えるわ。リボンをほどけば、なぜ以前に教えられなかったのかが分かるでしょう。」

ゆっくりと慎重に、アルフレッドはリボンをほどきました。するとジェニーの頭が落ちました。

ハイビーム

Scary Stories to Tell in the Dark より

Alvin Schwartz (文)、Stephen Gammell (絵)

古い青いセダンを運転していた女の子は高校3年生でした。彼女は約13km離れた農場に住んでおり、その車を使って通学していました。その晩、彼



女はバスケットボールの試合を見るために町に行きました。今、彼女は帰路についていました。学校を離れると、駐車場から彼女を追いかけてくる赤いピックアップトラックに気付きました。数分後、そのトラックはまだ彼女の後ろにいました。

「同じ方向に行くみたいね」と彼女は思いました。

彼女はミラーでトラックを注意深く見始めました。彼女がスピードを変えると、トラックの運転手もスピードを変えました。彼女が他の車を追い越すと、彼もそうしました。

すると彼はハイビームを点灯させ、彼女の車を明るく照らしました。その光はほぼ1分間続きました。「私を追い越したいのかもしれない」と彼女は思いました。しかし、彼女は不安を感じました。



普段彼女は裏道を通って帰宅していました。そこを通る人はあまりいませんでした。しかし、彼女がその道に入ると、トラックも同じように入りました。

「彼から逃げなきゃ」と彼女は思い、運転を速め始めました。すると彼は再びハイビームをつけました。1分後、彼はそれを消しました。そして再び点灯し、また消しました。

彼女はさらに速く運転しましたが、トラックの運転手は彼女の真後ろにいました。すると彼は再びハイビームを点けました。再び彼女の車は光に包まれました。「彼は何をしているの?」と彼女は疑問に思いました。「彼は何が欲しいの?」すると彼は再びハイビームを消しました。しかし1分後、再び点灯させ、そのままにしました。

ついに彼女は自分の家の車道に入り、トラックもその真後ろに入りました。彼女は車から飛び出し、家に向かって走りました。「警察を呼んで!」と彼女は父に叫びました。車道には、トラックの運転手がいました。彼の手には銃がありました。

警察が到着すると、トラックの運転手を逮捕しようとしたが、彼は「俺は何も悪くないよ!」と言いました。女の子の車を指差し、「悪いのはカレだよ!」

運転席の後ろには、ナイフを持った男がしゃがんでいました。

トラックの運転手の説明によると、その男は女の子が学校を出る直前に彼女の車に忍び込んだのです。トラックの運転手はそれを目撃しましたが、止める方法はありませんでした。警察を呼ぶことを考えましたが、彼女を置いていくのが怖くてできませんでした。それで、彼は彼女の車を追いかけることにしました。

後部座席の男が女の子を襲おうとするたびに、トラックの運転手はハイビームをつけました。その時、男は誰かに見られるのを恐れて身を引きました。👻

みんなおいでよ! 2025

江別 '世界市民'の集い

10.12 (日)
13:00~15:30
会場: 野幌公民館
(江別市野幌町13-6)

参加 無料

おばけ屋敷

ステージ発表

ネパール舞踊
folklore
ゴスペル
留学生自国紹介
ズンバ、など

世界の料理販売

タイカレー、タコス
キッシュ、チキンテッカ
など、世界の料理をお楽し
みください。

ゲームコーナー

国際交流コーナー

和装着付け
活動展示

茶道お点前

内容は変更になる場合もあります

お問い合わせ: 江別国際センター
☎011-381-1111 ✉info@ebetsu-iec.org
主催: 江別市国際交流推進協議会

お問合せ先
教育部 生涯学習課 国際交流員
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24-6
Tel: 011-381-1049 Fax: 011-382-3434